



活動報告；平成25年度第2回役員会を開きました

10月26日（土曜日）の10時～12時に、札幌市のかでる2・7（道民活動センター）で本年度2回目となる中央地区里親会の役員会を開催しました。太田会長をはじめ理事6名（内1名は事務局長）と監事1名が出席し、さらにアドバイザーとして中央児童相談所から横堀主査に加えて門前慶介・齋藤康樹里親支援専門相談員が参加されました。

一番目の議題は平成27年度全道里親大会に向けた準備についてです。先の9月に旭川市で本年度の全道里親大会があったばかりで、しかも再来年のことを云うと鬼が笑うどころか閻魔さんが笑ってしまうかもしれませんが、9月の行楽シーズンに大会に適した良い場所を確保することの難しさと、私たち里親にとって大事な8年に一度の大会に向けて準備として早すぎることは無いという太田会長の考えです。

道北双葉里親会の事務局から教えていただいた今年の旭川大会の収支予算書や、平成19年に中央地区里親会が当番として千歳市で開催された大会の収支決算書などを参考に意見交換が行われました。主な意見として、①管内市町村から助成を受けるので、札幌市を開催場所とすることは困難、②公民館などの公的施設での開催は主催者側の労力負担が大きい、③開催場所の選定には、大会の円滑な運営が行われることが必須の条件であることなどが出されました。

上記の議論を経て、①福祉施策に力を入れている北広島市を第一候補として会場や宿泊施設など諸条件の検討を進めること、および②今後、中央児童相談所、道里連および中央地区里親会役員による準備委員会を立ち上げることが決まりました。これからも準備の進行状況について随時お知らせします。

二番目の議題は、平成25年度中央地区里親会研修会（冬期宿泊研修）についてです。毎年1月中旬に開催しているこの研修会ですが、従来は後志地区と石狩地区が交互に当番として企画、運営していました。今年度は石狩地区が当番となり、出来ることなら若い里親さんたちに幹事を分担してもらいたいなどの意見が出されました。それらの議論を受けて、当別町の佐藤雅樹・奈月さんが中心となって研修担当チームを組織することが決まりました。

お知らせ；平成25年度中央地区里親会研修会（冬期宿泊研修）について

上記の役員会での決定を受けてその後、当別町の佐藤雅樹・奈月さん、北広島市の見上幸児・美智子さんに加えて里親支援専門相談員の門前慶介さんが研修担当幹事となって、冬期宿泊研修の準備と開催にあたることになりました。もちろん事務局も全面的にバックアップします。

これまでに、札幌市の駒岡保養センターを会場として平成26年1月18日に開催することが決まっています。今後、具体的な研修内容が決まり次第、正式な案内を各会員にお知らせしますが、日程についてはぜひ予定に組み込んでおいてください。

お知らせ；各地区会活動の予定紹介

① 「コモンセンス・ペアレンティング（CSP）講習会」

「江別地区里親の集い」の主催で11月16日（土）13時30分から、江別市総合社会福祉センターにて表記の講習会が行われます。江別市近隣の里親さんには案内が送られていますが、関心のある方は事務局の水島までお問い合わせください。

② 「灯の会」クリスマスの集い

既に石狩地区の里親さんには案内が届いているかと思われませんが、12月8日（日）午前11時から江別市野幌公民館にてクリスマスの集いが開催されます。参加を希望される方は11月26日までに幹事の井上さん（0133-62-9308）、西野さん（0123-33-8372）、倉内さん（011-386-6188）にお申し込み下さい。

③ 「育みの会」月例会

11月29日（金）10時～13時の予定で恵庭市黄金コミュニティーセンターで、「育みの会」の月例会が開催されます。主にコモンセンス・ペアレンティング（CSP）について話し合います。参加を希望される方は、西野さん（0123-33-8372）までご連絡ください。

**里親の体験談：わが子として (H.N) 埼玉県里親会 ホームページから抜粋**

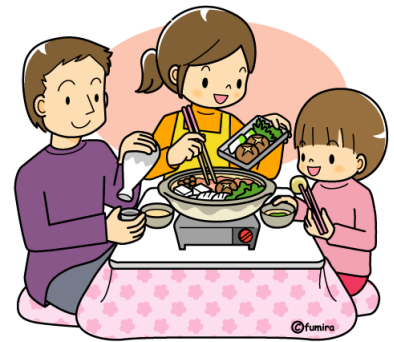
Rが我が家に来たのは、3歳8か月の時です。それから5年が経ち、今年の秋には丸6年になります。Rが来てからのてんやわんやは以前に、会報「いとご」に寄稿させていただいたので、今回は縁組の事を書かせていただきます。

我が家に来て、4か月後には幼稚園に入園しました。幼稚園側でも事情を把握してくださり、ずっと私たちの性で通していただきました。そして年長になり、小学校入学が具体化してきた頃、特別養子縁組の手続きを始めました。

裁判所に提出する書類や戸籍謄本の取り寄せなど、緊張しながらも少々面倒くさいとも感じ、進めていきました。進めていくうちに、「あー、これでやっと堂々と『うちの子です!』と言える。」という喜びの感情が大きくなっていく一方、「そうか、この子は今まで私たちの子どもじゃ無かったんだ。人様の子どもだったんだ。」と、不思議な感情も湧き上がってきて、悲しく思えたのでした。

そして、小学校入学の半年前、日曜日の朝、まだ主人と私の3人で布団の中でゴロゴロとしている時、Rに「本当はお母さんのお腹から生まれたんじゃないんだよ。」と伝えました。Rは、『ダメだよ!』と一瞬涙を流しましたが、直ぐにテレビの戦隊ヒーローものに夢中になり、それからは何事もなかったかのように過ごしていました。おそらく、自分の心の中ではまだよく理解できていなかったのかも知れませんが、天真爛漫な性格に救われた気がしました。

そして年が明けて1年半ば、晴れて親子になれました。今では、「親子なんだから、一緒にいなきゃいけないんだよ!」と言ったりしています。時々ですが、「ドラえもんタイムマシンで本当のお母さんに会いたい。」と言うこともあります。でも、ただ会ってみたいだけなのだそうです。いずれ私たちの知る限りですが、もう少し詳しく話をする機会が来ると思いますが、タイミングを見てうまく伝えられたらいいなと思います。



それから余談ですが、なぜかRは主人や私とも似ているらしく、何気なく入ったうどん屋の店員さんに、「あら、お父さんにそっくりね!」と言われ、私たちや同行していた知人は、クスリと苦笑いした事がありました。これからも、我が子として生活していく上でいろいろな事があるかと思いますが、顔や性格も似てくるのかしらと思うと、ワクワクしてきます。

また、機会をいただけましたら、いろいろなエピソードを発表させていただきます。

原稿募集：里親の思いや体験を共有しませんか

「なぜ里親になろうと思ったの?」と聞かれることがありませんか。また里親としての歳月が長くなり委託を受けてともに暮らした子どもたちの数が増えるにつれて、喜びや悲しみ、楽しみや苦しみが積み重なっていることと思います。そうした思いや体験を里親会の仲間と共有しませんか。新しい里親さんにはそれが貴重な体験談として参考になるとともに、同じ経験を持つ里親さん同士には励みになるものと考えます。今の思いを飾ることなく、そのまま紙に書き付けて、事務局へお送り下さい。

匿名でもかまいませんし、いつでも受け付けていますので、よろしく願いいたします。